

The background of the entire page is a detailed, high-contrast line drawing of a mechanical watch movement. The drawing is split vertically: the left half is white with dark green outlines, and the right half is a solid dark green with white outlines. The movement features various gears, levers, and plates, with some components highlighted in a lighter shade of green. The overall aesthetic is technical and precise.

Instructions for use
Mode d'emploi

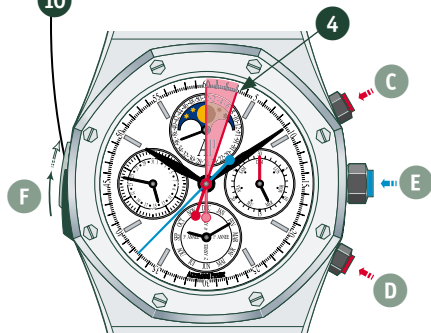
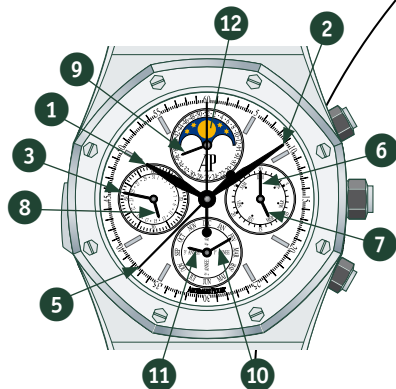
GRANDE COMPLICATION

ROYAL OAK ET
JULES AUDEMARS

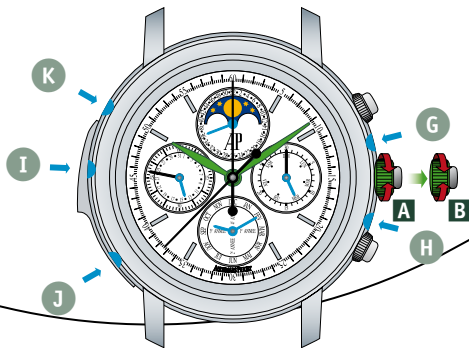
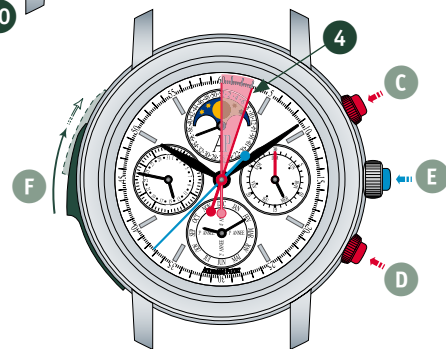
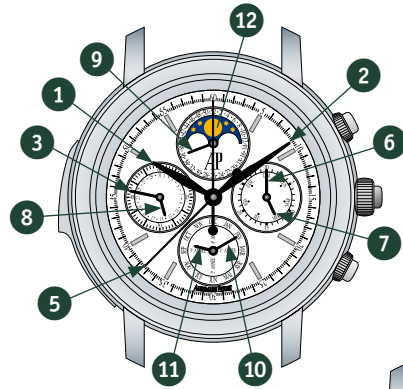
Calibre 2885
Selfwinding

AP
AUDEMARS PIGUET
Le maître de l'horlogerie depuis 1875

ROYAL OAK



JULES AUDEMARS



日本語

1 イントロダクション 211ページ

オーデマ ピゲ マニュファクチュール

グラン コンプリカシオン

2 時計の仕様について 220ページ

基本ムーブメント

ムーブメントの技術仕様

時計の表示と機能

3 基本的な機能 225ページ

時刻合わせ

時間帯の調整

ムーブメントの巻き上げ

スプリットセコンド クロノグラフの機能と使い方

ミニッツリピーターの機能と使い方

永久カレンダーの表示合わせ

ムーンフェイズ

閏年表示

時計が止まったときの修正（3日以内の場合）

時計が止まったときの修正（4日以上の場合）

1. 閏年

2. 月

3. 日付

4. 曜日

5. 週

6. ムーンフェイズ

7. 時刻合わせ

4 付属品 237ページ

ワインディング ボックス

共鳴ボックス

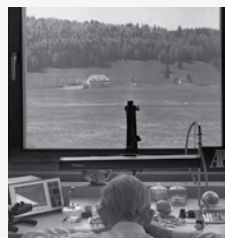
修正器具

5 備考 239ページ

使用説明書の目次はインタラクティブになっています。

読みたい項目のタイトルもしくはサブタイトルをクリックしてください。

目次に戻りたい場合は縦に配された白いインデックス「日本語」をクリックしてください。



マニュファクチュール

時計製造技術の発祥の地、ジュー渓谷

ジ ュネーブの約 50km 北、スイス・ジュラ山脈の中に、今日までその自然の魅力を保っている地域、ジュー渓谷があります。この山岳地帯は気候が厳しく、土壌も痩せていたため、この地に根を下ろした人々は18世紀の中頃に、農業以外の収入の道を探すことを考えました。コンビエと呼ばれたこの土地の人々は、手先の器用さと新しいものを創造する力、また不屈の精神を活かして、時計製造業へと向かうことになりました。

こうして作られたムーブメントは質の高いものであったため、ジュネーブの企業に大変な好評をもって迎えられ、そうした企業によって完全な時計に仕上げられたのでした。

1740年以降、ジュー渓谷のみで時計製造業は自立した産業として発展することができるようになりました。このとき以来、この地域は、ある年代記の1881年の項に記されているように、「急速に貧困が解消された桃源郷」へと変貌を遂げたのです。

偉大なる冒険に挑んだ2つの名前

1

1875年、複雑時計の製作に情熱を傾ける2人の若き天才時計職人、ジュール・ルイ・オーデマとエドワール・オーギュスト・ピゲが、高級時計産業が盛んな地、ジュー渓谷で2つの才能を集結させ、複雑機構を搭載した時計を開発・製作しようと決意しました。2人の決意、想像力、そして規律の正しさは、ただちに成功を収めました。1885年ごろ2人はジュネーヴに支店を構え、1889年のパリ万国博覧会の際には様々な超複雑懐中時計を発表して、新たな取り引き関係を広げます。オーデマ・ピゲのマニュファクチュールは年々と発展を続け、例えば1892年には初めてのミニッツリピーター機能付きの腕時計、1915年にはそれまで実現されたことのない5分単位ミニッツリピーター機能を備えた最小ムーブメントを製作するなどして、高級時計産業の歴史を彩ってきました。

1918年からは、創設者の息子たちが事業を受け継いでいます。男性用、女性用の腕時計の製作に卓越した技術を発揮し、極薄の洗練された新しいムーブメントを作り出しています。1929年のウォール・ストリート株価大暴落によって厳しい経営を強いられるものの、粘り強さと自主性を持ち続けることで、まずスケルトンと呼ばれる時計の製作を再び軌道に乗せ、その後クロノグラフ付き時計の製造に乗り出し



ました。しかし、この新しい勢いも、第二次世界大戦によって突然中断を余儀なくされてしまいます。戦後は再編成をし、マニュファクチュールは、昔ながらのイノベーションを持続させつつ、高級時計の製作に力を入れることになりました。この戦略は大変クリエイティブな大胆さを持つと同時に、多くの実りをもたらすことになります。

国際的な成功を収めたオーデマ・ピゲは、1972年にステンレススチールを用いた世界初のラグジュアリースポーツウォッチとして発表され、発売と同時に大きな成功を収めたロイヤル・オークの製作をはじめ、1986年に発表された世界初の自動巻きの極薄トゥールビヨン腕時計などの製作を続けてきました。以来、マニュファクチュールの創造のひらめきは衰えることなく、比類ないムーブメントを備えた独自の美しさを持つ時計を世に送り続けています。こうして80年代末には複雑時計のテイストをコンテンポラリーなものに一新し、1999年には見事なコレクション「トラディションオブエクセレンス」を発表します。この時計には、パワーリザーブ・インジケーター機能、デットビートセコンド機能、垂直に配された永久カレンダーが備わっており、さらには潤滑油を必要とせず革命的な高い効率で機能する新脱進機システムを搭載することにより、伝統に根付いた大胆なスピリットを実現しながら、未来をも約束しています。

グラン コンプリカシオン

グラン コンプリカシオンとは？普通の人ならば、迷路のように複雑な時計、と答えるでしょう。

時計師だったら、より多くのことを語ってくれる時計、と答えるでしょう。他の人から見れば不可能としか思えない匠の技を持ち、先端技術も美しい作品も同じように愛する時計師は、グラン コンプリカシオンがいかにか極上の仕上げを必要とするかを知っています。そして、人間の手だからこそできるのだと、改めて示してくれるのです。

コンプリカシオンには3つのカテゴリーがあります。一つめのグループはクロノグラフ、スプリットセコンド クロノグラフ、ジャンピング セコンド クロノグラフなど、1本ないし複数の表示用の針が追加搭載されているものです。2つめのグループはソネリ機構を有する時計たち、そして3つめは天文表示があるもの、すなわちカレンダー表示、ムーンフェイズ、イクエーション オブ タイムなどです。“グラン コンプリカシオン”という神秘的な名前を名乗ることができるのは、この3つのカテゴリーから最低4つの機能が搭載されているものだけです。

外観の美しさ、信頼性と精度の高さのすべてに一貫性のある時計を作り出すには、最高の技術が必要です。それを体現したのが、オーデマ ピゲ マニファクチュールのキャリバー2885。直径14ライン(31.60 mm)、厚さ8.55ミリの自動巻キャリバーは、スプリットセコンド クロノグラフ、ミニッツリピーター、ムーンフェイズ付き永久カレンダーを搭載しています。

ミュージカル アワーズ

ジュー渓谷の時計師たちは、いつの日もソネリ機構に大きな情熱と生まれ持った才能の全てを傾けてきました。山間の静けさと、雪が降り積もる長い冬のしんとした世界の中では、小さなオルゴールのような機構が奏でるクリスタルのように透明な音色が、より一層神秘的に聞こえるからかもしれません。あるいは、この複雑なメカニズムが、今や伝説となっている発明の精神を掻き立てるからかもしれません。

1875年にル・ブラッシュに創設されたオーデマ ピゲ マニュファクチュールは、いち早くソネリ機構搭載時計の技術を発表し製作を開始しました。1889年、オーデマ ピゲは、好きな時に時間、クォーター、分を鳴らすことのできるミニッツリピーターを搭載した“グラン コンプリカシオン ポケットウォッチ”を発表しました。

ミニッツリピーターは、好きな時にいつでも時を奏でてくれます。低音のゴングで時間、高音・低音の連続音でクォーター、高音のゴングで最後のクォーターから経過した分を報せます。この時計には特に高度なメカニズムが必要とされます。というのは、念入りにチューニングされた楽器であると同時に、いくつ時を鳴らせばよいのか、いつでも「知って」いなければならないからです。

このノウハウを搭載したタイムピース
(その多くはソネリ機構と他の複雑



機構とを組み合わせた時計ですが -)) は20世紀の間中、時計愛好家の方々に評価され続けました。1992年にオーデマ・ピゲは、ミニッツリピーターと、もうひとつの特技を組み合わせた時計を発表しました。それがジャンピングアワーです。マニュファクチュールはすでに1924年に時間のアナログ表示に別れを告げ、6時位置にスモールセコンドを配した、控えめでエレガントなアールデコ様式のジャンピングアワー搭載ポケットウォッチを発表していました。

無限の豊かさ

時計の中核を成すテンプは、1時間に19'800回振動しながら、正確にムーブメントの動きを調整します。ダイヤル上では12の表示が時を読み解きます。閏年表示の針は4年で、月・週表示の針は1年でダイヤルを一周します。ムーンフェイズのディスクは一周で新月から次の新月までを2回繰り返します。日付表示の



針は必要性があるときは日を飛ばしつつ、1ヶ月で一周、そして曜日表示の針は7日間で一周します。

クロノグラフの分表示針は30分で一周です。ダイヤル上を優雅に回るのは4本の長い針。時間、分の針は絶え間なくダイヤルを駆け巡り、クロノグラフの秒針とスプリットセコンド針はプッシュボタンによって作動します。そしてスモールセコンドは、1分は常に60秒であることを示すように確実な歩みを刻みます。

目を見張るようなクリエイション

ミニッツリピーター機能はケースの左側に守られるように配された巻き上げレバーによって作動します。サファイアクリスタルバックから垣間見ることができる2つのゴングは、ハンマーのリズムに乗って時間、クォーター、分を奏でます。

オーデマ ピゲのグラン コンプリカシオン、そのスタート地点は、時計師の作業台にある、ばらばらになった648ピースの巨大なパズル。ここから忍耐力、精緻さと、何よりも職人のノウハウの勝負が始まるのです。こうして出来上がったマスターピースの心臓部は、この世に生み出した人よりも、ずっと長く時を刻み続けます。そしてコンプlicationsは、その特別な世界を私たちにもおのづかしてくるのです。



ムーブメント

キャリバー 2885

ブリッジ側



自動巻のメカニズム



スプリットセコンド クロノグラフのメカニズム

ダイヤル側



ミニッツリピーターのメカニズム



永久カレンダーのメカニズム

ムーブメントの技術仕様

ベースムーブメントの厚さ(ローターを含む): 8,55 mm

ムーブメントの直径: 31,60 mm (14 ライン)

ケーシング直径: 31 mm

振動数: 19'800振動/時 (2,75Hz)

石数: 52

パワー・リザーブ: 約 50 時間

一方向回転の自動巻(ダイヤル側から見て反時計回り)

ジャイロマックステンブ

“フィリップス(ブレゲ式)カーブ”のバランススプリング

耐振テンブ軸受け“KIFエラストー”

部品数: 648個

時計の表示と機能

(表紙の裏側にある図解参照)

- ① 時針
- ② 分針
- ③ スモールセコンドの針
- ④ クロノグラフの針
- ⑤ スプリットセコンドの針
- ⑥ 分カウンターの針
- ⑦ 曜日表示の針
- ⑧ 日付表示の針
- ⑨ 週表示の針
- ⑩ 月表示の針
- ⑪ 閏年表示の針
- ⑫ ムーンフェイズ表示

クロノグラフ:

- C** クロノグラフのプッシュボタン
1プッシュめ: スタート
2プッシュめ: ストップ
- D** ゼロ リセットのプッシュボタン

スプリットセコンド:

- E** スプリットセコンドのボタン
1プッシュめ: ストップ (中間タイム計測)
2プッシュめ: スプリットセコンド針がクロノグラフの針の上に返る

ミニッツリピーター:

- F** ミニッツリピーターの巻上げレバー

修正用ボタン:

- G** 曜日修正ボタン
H カレンダー修正ボタン (日付、曜日)
I 週 修正ボタン
J 月・閏年修正ボタン
K ムーンフェイズ修正ボタン

この時計は2段階式のリュースを備えています。

- A** 位置 手巻き
B 位置 時間合わせ

グラン コンプリカシオンは

- ・ 時間、分、秒 (9時位置にスモールセコンド)
- ・ 日付、曜日、週、月
- ・ 閏年
- ・ ムーンフェイズ を表示します。

- ・ 好きなときに時間、クォーター、分を鳴らすことができます。

スプリットセコンド クロノグラフにより、

- ・ 1/5秒ごとの間隔と分の積算
- ・ 同時にスタートし、終了時間が異なる複数の出来事のタイムを計測することができます。



時刻合わせ

リューズをポジション **B** に引き出します。時刻合わせをする時はリューズを前後に回すことができます。合わせたい時刻まで慎重に針を進めながら、正確に時刻合わせをしてください。

注意:

- ミニッツリピーター機構の作動中に時刻合わせはしないでください。
- 12時と24時を間違えないように気をつけてください。

時間帯の調整

カレンダーの調整は午前1時から午後6時の間に行いますと永久カレンダーのメカニズムを損傷することなく修正できます。

24時以降に針を戻す必要がある場合、日付と曜日が1日進みます。この日付の差はすぐにもとに戻るので修正をする必要はありません。

ムーブメントの巻き上げ

リューズを最低30回 **A** 位置で回して時計を巻き上げます。その後は手首の動きにより、自動巻機構が時計の正常な作動を持続させます。

注意: 時計を腕に付けていない時、自動巻システムは機能せず、時計は2日ほどで止まります。

スプリットセコンド クロノグラフの機能と使い方

クロノグラフ針とスプリットセコンド針がダイヤルのセンターに重なって配されています。

ボタン **C** はクロノグラフを、ボタン **E** はスプリットセコンドの針を作動させます。

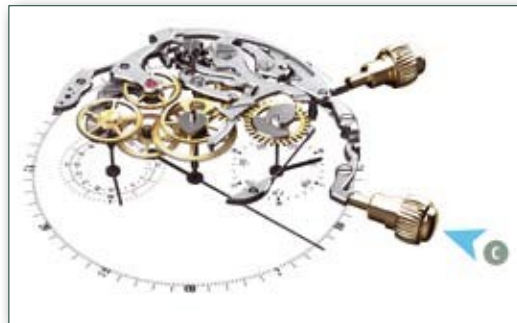
スプリットセコンド クロノグラフにより、同時にスタートし、終了時間が異なる複数の出来事のタイムを同時に計測できます。

ボタン **C** により、クロノグラフ針とスプリットセコンド針を同時に動かしたり止めたりできます。針は1分間で一周します。ボタン **E** を押すとスプリットセコンド針がストップし、最初のタイムを読み取ることができます。その間、クロノグラフの針は動き続けます。

クロノグラフの機能（ケースバックより見た図）



クロノグラフはボタン **C** を押すとスタートします（ケースバックから見た図のため、ボタンは逆側に付いています）。



もう一度ボタン **C** を押すと、クロノグラフはストップします（ケースバックから見た図のため、ボタンは逆側に付いています）。

もう一度ボタン **E** を押すと、スプリットセコンド針はクロノグラフの針と重なり、再び一緒に動きます。最後のタイムを取り終わった後は、ゼロ リセットボタン **D** を押すと、2本の針は重なり合った状態で止まり、スタート位置に戻ります。

3時位置の分カウンターの針は分を積算します(一周は30分に相当します)。

警告:スプリットセコンドのメカニズムは中間タイム計測のためにありますので、常に作動させた状態にしないでください。また、ボタン **C** と **D** を同時に押さないでください。メカニズムに損傷をきたす恐れがあります。

クロノグラフ作動時のスプリットセコンドの機能
(ケースバックより見た図)



同じボタン **E** を押すとスプリットセコンド針は止まり、最初のタイムを計ることができます。その間、クロノグラフの針は動き続けます。

再度ボタン **E** を押すと、スプリットセコンド針はクロノグラフ針と重なり、再び一緒に動きます。



最後のタイムを取り終わった後は、ボタン **D** を押すと、2本の針は重なり合い、ゼロ リセット位置に戻ります(ケースバックから見た図のため、ボタンは逆側に見えます)。

ミニッツリピーターの機能と使用方法

自動巻グラン コンプリカシオンは好きな時間に時間、クォーター、分を鳴らすことができます。2つのハンマーが2種類のゴングを打ち、低音のゴングで時間、高音のゴングで分、高音・低音の連続音でクォーターを報せます。

例：3時37分



ミニッツリピーターを作動させるゼンマイは、ケースの左側をスライドするレバー **F** によって巻き上げられます。

セキュリティ ロックが、レバーが完全にスライドされない限り、ミニッツリピーターが作動するのを防ぎます。

注:レバーのスライド距離は鳴らす時間の数により異なります。

注意:ミニッツリピーターが作動している間、レバーに外からの力が加わらないよう、ご注意ください。



時間のリピーター メカニズム



クォーターのリピーター メカニズム



分のリピーター メカニズム



時間、クォーター、分のミニッツリピーターのメカニズム

永久カレンダーの表示合わせ

事前の注意

修正ボタンを不適切に使用すると、表示が不正確になる恐れがあります。必要な場合のみ、下記の指示を遵守して、修正ボタンを使用してください。

ムーンフェイズ

新月から次の新月までの期間は29日12時間44分2.8秒です。

注:別表に、様々なムーンフェイズの日付が記してあります。

閏年

4で割り切れる年は閏年（2月が29日まである年）です。

例:1916年、1920年、... 2008年、2012年、2016年、2020年

下2桁がゼロの暦年は閏年ではありませんが、400で割り切れる年は閏年です。

例:1600年、2000年、2400

時計が止まったときの修正 (3日以内の場合)

リュウズを **B** の位置にし、正確な日付が得られるまで、針を進行方向に回します。

時計が止まったときの修正 (4日以上の場合)

注意

修正ボタンを使う前に、リュウズを **B** の位置に引き出し、時計回りに表示針を1日進ませます。その後、針を10時10分の位置に合わせます。この状態では、あらゆるメカニズムが休止状態になるので、修正ボタンを押しても暦が損傷するおそれはありません。

修正ボタンを操作するときは、付属の器具を使い、慎重に、かつ十分にボタンを押してください。



修正の仕方

次の順序で調節します。

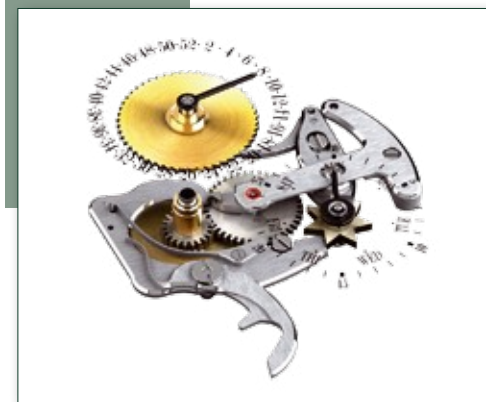
1. 閏年を修正する必要があるときは、8時位置の修正ボタン **J** で調節します。
2. 月は8時位置の修正ボタン **J** により、希望の月の一ヶ月前に修正します。
3. 日付は4時位置のボタン **H** で修正します。
曜日、週、月、年の修正も同時に行います。
4. 曜日は2時位置のボタン **G** で修正します。
5. 週は9時位置のボタン **I** で修正します。
6. ムーンフェイズは10時位置のボタン **K** で修正します。

ムーンフェイズの調整方法は次の通りです。

- a) 満月のディスク（太陰暦の15日目に相当）を表示させます。
- b) 前回の満月の日を決定します。前回の満月の日付と今日の日付の間の期間、1日につき修正ボタン **K** を1回押し押します。

7. 時計の時間を合わせます。

現在時刻が時計の指している時間（10時10分）よりも前である場合、針を反時計周りに回して時刻を合わせます。



曜日、週のメカニズム

ムーンフェイズのメカニズム



2月29日のカレンダー メカニズム



ワインディングボックス

この腕時計を着用していないときでも巻上げをおこない正しい表示に保つために、“自動巻グランドコンプリカシオン”には2本の電池で動くワインディングボックスが付属しています。

共鳴ボックス

数センチの間隔で配された2つのエゾマツ製の共鳴板が装置の中核を成します。

架台が振動を時計から共鳴板へと伝えます。時計を1プッシュするだけで、折りたたみ式の蓋がソネリの音を最大限に響かせます。この蓋には機能もう一つあります。聴衆に向けて開くと、その方向に音を飛ばしてくれるのです。このように共鳴ボックスはまるで楽器のように製作されています。

修正用器具

修正ボタンを操作するときは、なるべく付属の修正用器具を使用してください。



保証とお手入れ

時計の保証、および推奨するお手入れ方法に関する全ての詳細な情報は、証明書および付属の保証書に記されています。

